日本行動計量学会会報
第43号
1988年2月26日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

学会活動と行動計量学シリーズ刊行

肥田野　直

学会活動は人間の組織的行動の一つと言えるであろう。そのような見方からわが行動計量学会の活動を考えてみたい。学会の活動には求心的活動と遠心的活動の二つの面があるように思われる。

求心的活動とは組織の成員の結合を維持・強化し、組織体としての生産性を高めるための活動である。任意的団体である学会は入会したい人たちが自発的に加入するが、一方では嫌になったら退会するのも自由である。そのような組織を維持発展させるためには、成員が互いに連帯感をもち、学会の構成員としての意識をもつことが必要である。政治的あるいは経済的団体であれば、共通の利害関係をもつ成員の結合をはかることは容易であるが、学問の世界ではそのような結びつきは強くない。

学会活動においては共通の学問的関心をもつ人たちが知的欲求を満足するために集ってくる。そして、この知的共同作業が進展するにつれて自分たちの組織のアイデンティティを求めるようになる。その活動がさらに成熟すると一つの学問体系（ディシプリン）としての独立を追求するようになる。

この求心的活動を行動計量学会に当てはめると、会報の発行、和文誌・欧文誌の両機関誌の発行、大会の開催などがこれに該当すると思われる。これらの活動を通じて会員は学会との結びつきを強め、会員相互のコミュニケーションを深めていく。

また、学会の役員選挙や学会賞も求心的活動に数えてよいであろう。とくに、学会賞は「行動計量学的」研究とは何かを考えさせられるという意味で、求心的活動のシンボルとも言える。

以上述べた学会の諸活動は、共通の言葉を話す身内同志の結束を維持するのに役立つ。しかし、これだけでは、ややもすると「家族的」な雰囲気の中に安住してしまうおそれがある。その結果、創立当時の荒削りながら生気あふれる積極性が失われてしまう。

学会の遠心的活動は学会の存在を社会に知らせ、新しい会員を獲得して学会の裾野を広げる活動である。それは学会の存在意義を社会に認識させるとともに、学会に新鮮な活力を導入して将来の発展の基礎をつくるものである。

この遠心的活動を行動計量学会に当てはめてみると、月例シンポジウム、講習会、研究会、サマーセミナーなどがこれに該当すると思われる。これらの活動は、今までは行動計量学について殆ど知らなかった人々に、ある特定のテーマを通じて行動計量学なるものの一面に関心を向けさせる効果をあげている。これらの活動は啓蒙的役割を果たすばかりでなく、行動計量学の存在とその有用性を多くの人々に認識させるのに役立っている。

ところで「行動計量学シリーズ」の刊行も、学会の遠心的活動の一つに数えられるであろう。一九七五年発行の本会報七号に刊行委員会の青山博次郎初代委員長の「行動計量学シリーズ刊行をめざして」という文章が掲載されている。そこに求められている構想は山本俊一第二代委員長の下で具体化したが、種々の事情から刊行までには至らなかった。

十年余の懸案であったこのシリーズの刊行がようやく実現に近づいた。出版社朝倉書店との契約を済ませ、執筆者への原稿依頼もすべて完了した。あとは一九八九年春の刊行を待つばかりである。しかし、安心は禁物である。十数巻のシリーズが書店の棚に並べられ、わが学会の存在を主張するまでは。

（ひだの・ただし　放送大学教授　本学会理事　刊行物委員会委員長）

会議記録

○理事会
時　昭和六十二年十一月十日
所　統計数理研究所
出席者　理事　四名

1. 日本学術会議第14期会員の候補者の選定については、適任と思われる方を、本学会の理事・監事に推薦してもらう、という方法で進めることとした。
2. 第十六回大会の開催時期について意見を交換した。
3. 各種委員会報告が行われた。

○理事会
時　昭和六十三年一月六日
所　統計数理研究所
出席者　理事　十名

1. 理事・監事の選挙が終了したことが報告された。
2. 第十五回大会についての報告が浅野理事（九州大学。第十五回大会実行委員長）より行われた。
3. 日本学術会議第14期会員の候補者、および推薦人の選任について、林理事長に一任した。
4. 第十六回大会の開催時期について意見を交換した。（その後決定した期日は下段を参照。）
5. 各種委員会報告が行われた。

○運営委員会
時　昭和六十二年十一月十八日
所　統計数理研究所
出席者　運営委員　七名

1. 講習会について
「マイコン統計学」をテーマに引続き計画を進める。
2. 月例シンポジウムについて
第46回「街づくりのシェフ（市長）が語る私のヌーベルクュイジン」（十月二日）、第47回「ヒトは形をどのように見ているか」（十一月二十八日）の実施が報告された。
今後の計画として、「新人類」、「言語情報処理」のテーマの計画が進んでいる旨の報告があった。また、「五十回記念シンポジウム」を大会の時に開催できるよう大会実行委員会に依頼することが確認された。その他、月例シンポジウムに適当なテーマについて話合った。
3. その他
賛助会員を増やす方策、月例シンポジウム発題者（とくに非会員の）に対する旅費や謝礼のあり方について理事会に提議することにした。また、会報について、紙面の近代化を検討した。

会合記録

第48回月例シンポジウム
第8回行動計量関西懇話会

時　昭和六十二年十一月二十八日　土曜日　十三時半～十七時
所　京都大学・楽友会館パーラー
テーマ「ヒトは形をどのように見ているか・人のパターン認識」
オーガナイザー
井上通敏（阪大）
木下冨雄（京大）
江島義道（京大）
発題　浜田治良（徳島大）
三宅　誠（ＡＴＲ視聴覚研）
中谷和夫（東大）
参加者　八十七名
共催　バイオ・インフォーマティクス研究会
後援　ＭＥ学会関西支部

第16回大会の日程

第16回大会は、昭和六十三年
▼八月　二十五日（木）から　二十七日（土）まで三日間
▼千葉大学で開催されます。
目下、運営のいろいろな企画が検討されています。会員各位にも研究発表はじめ多数の積極的な参加をお願いします。

学会賞候補者の推薦を

既にご存知のように、本学会では行動計量学に優れた業績を上げた人を対象とする学会賞を設け、毎年の総会の席上で授与しています。

学会賞には「功績賞」と「優秀賞」の二種類があり、前者は行動計量学の発展に著しく寄与した個人、後者は行動計量学に関する優れた研究業績を発表した個人またはグループが対象となっており、過去二回計五名の方々が受賞なさっています。

本年度も学会賞選考委員会が発足し、候補者を選出するための作業が始まりました。現在、理事、監事、各種委員の方々に推薦をお願いしているところです。

しかし、推薦有資格者は限定されておりませんので、適当な候補者がありましたら、その旨を最寄りの推薦人にお伝えください（推薦様式が定まっていますので）。また、学会賞そのものへのご意見もお寄せください。

なお、候補者推薦の締切りは63年3月末となっております。よろしくご協力ください。

第2回学会賞受賞者の声

▼功績賞

功績賞受賞にあたって

柳井　晴夫

昨年の高根芳雄氏に引続き、功績賞を受賞できて大変光栄です。

行動計量学会も昭和48年の第1回大会から数えて、本年で第15回を迎え、ようやく国内は勿論のこと、国際的にも認知されるようになってきたようです。本学会の特色のひとつには、境界領域の分野の研究者が一堂に会して学際的研究を推進させることがあると思います。私自身、博士課程で教育学部の教育心理学を専攻した後に、医学部の疫学教室の助手に就任、その後、文学部心理学教室の助教授に昇進したという、極めてマレな経歴が学際的研究に深く首を突っ込む契機をもたらしたといって過言でないでしょう。このように取り扱う対象は一見異なる研究領域においても、データの処理のための方法論は共通しています。データ解析の方法論としてみれば、多変量解析の各種技法は、多くの異なった対象を取り扱う分野における共通の方法論として、大変貴重なものと思われます。

私自身、大学院時代からおよそ20年間、多変量解析の応用（適性検査、性格検査、健康調査、ガンの疫学、生活習慣調査の構成等）および理論的研究（特に射影行列、一般逆行列の観点から）に携わってきましたが、今日においても、各領域をつなぐ共通の言語としての機能を果す多変量解析の理論的および応用的研究に大変関心があります。

今後、行動計量学会の功績賞の権威を傷つけないためにも、これまで以上に一層の努力を重ねていく所存です。また学会の理事という立場からは、将来的には International Behaviormetric Society のような国際組織ができるよう、微力ながら努力したいと思います。

本紙面を借りて、竹内啓、山本俊一、肥田野直、そして林知己夫の諸先生方に、功績賞受賞にあたっての私自身からの感謝の意を表します。

（やない・はるお）

▼優秀賞

研究雑感

宮埜　壽夫

大変光栄に思っております。まず、私が研究を進めるにあたりこれまで多くの有益な助言を頂きました方々、特に製品科学研究所の犬飼幸男先生に感謝いたしたいと思います。

さて、私は計量心理学関係の研究を始めてから六、七年になるのですが、これまでいつもデータ取得の簡便化とそれに応じたデータ解析法を構成するということをテーマにしてきました。このようなテーマを取り上げたのは、多次元尺度構成法を最初の研究対象としたことによります。ご承知のように尺度構成法では、しばしばデータ取得に多大の労力を必要とします。そのためにいろいろなデータ取得法が考えられているのですが、労力の軽減がかえって信頼の置けるデータの取得を妨げてしまう、あるいは解析法の仮定からみて不都合なものになってしまうなどといった問題が起きています。私はこの問題を解析法に含まれる仮定をゆるめるという方向から研究を進めてきたつもりですが、もっと他の方向もありそうです。

現在は、このデータ取得の問題以外に単なるデータ縮約ではない新たな尺度構成法の開発が必要であると考えています。つまり、従来の尺度構成の考え方に、新たな誤差モデルを導入するという立場を越えたデータ解析法を開発すべき時期にきているように思います。そのために、認知科学の分野で発達した並列分散処理モデルなどを検討しているのですが、すくなくともこの分野の考え方は計量心理学にとっても非常に重要であると思われます。

以上、とりとめもなく感じるままに書いてきたのですが、計量心理学の最大の問題は研究者の数が非常にすくないことにあります。より多くの人がこの分野に参加されることを望んでいます。

（みやの・ひさお）

会員数（63・2・2現在）

名誉会員	一名
正会員	一、〇二九名
準会員	七九名
賛助会員	三二社

☆昨年十二月に実施された学会理事・監事の選挙は無事に終了し、さきごろの現理事会にその結果が報告されました。追加理事の決定や各種委員会の構成をまって、次号の会報でお知らせする予定です。

いろいろな研究集会の情報

○シンポジウム
「システム化と人間性」
時　昭和六十三年三月十八日（金）
十三時～十七時
所　日本学術会議・講堂
（東京都港区六本木七丁目
地下鉄千代田線・乃木坂）
主催　日本学術会議心理学研連委
司会　鹿取　廣人（東大）
発題①人間行動の多元的機能解析
林　知己夫（放送大）
②システムと人間感情
戸田　正直（中京大）
③マン・マシン・インターフェイスと健康心理学
内山喜久雄（日赤看護大）
④豊かな社会に於る人間形成
山根　常男（駒澤大）

○第3回国際ファジイ・システム学会大会（The 3rd International Fuzzy Systems Association Congress）
時　昭和六十四（一九八九）年
八月六日～十一日
所　アメリカ合衆国シアトル
論文締切　昭和六十三年七月一日
分量　A4判・ダブルスペースで15枚以下
提出先・連絡先　〒五九一
堺市百舌鳥梅町四丁八〇四番
大阪府立大学工学部　田中英夫
電話〇七二二－五二－一一六一

○第22回国際応用心理学会議
時　昭和六十五（一九九〇）年
七月二十二日～二十七日
所　京都・国立京都国際会館
実行委員長　三隅二不二（阪大）
準備会会長　本明　寛（早大）
発表領域（原文は英文）組織心理学、心理評価、心理学と国家開発、環境心理学、教育・学校心理学、経済心理学、法律と人間行動、交通心理学、社会心理学、一般心理学はじめ14の領域。
会議までのスケジュール
88年5月　第一号サーキュラー
12月　出席の予約登録締切
89年5月　第二号サーキュラー
個人発表・ワークショップの申込み開始
11月　同申込み締切
90年4月　プログラム発行
参加費用・予約登録
予約・一般　五万円
学生　四万円
当日申込　六万円
▼一括払いのほか、二回、三回の分割払いも可能。
問合せ先（振替用紙の請求も）
〒五六五　大阪府吹田市山田丘
大阪大学人間科学部社会心理学研究室（担当・杉万）
電話　〇六－八七七－五一一一

会費値上げのお知らせ

前号でもお知らせしましたが、当学会の年会費が昭和六十三年度分から値上げされます。総会での会則七条改訂によるものです。
新年度からは、
正会員　六、〇〇〇円
準会員　四、〇〇〇円
となります。会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

入会の手続きについて

新年度をひかえて学会への入会希望が増える時期です。手続きは次の通りです。
①入会申込書を請求する。
希望者はハガキに住所・氏名を記し、「入会申込書」を請求する。
請求先は、下記の事務センターの担当係（電話は不可）。
②センターからの「申込書」に必要事項を記入して返送する。
③学会で資格審査ののち、事務センターから会費を請求。

所属や住所の変更は早目に事務センターまで

年度の変り目で、所属の変更、住所の移転、準会員から正会員への変更など、会員の異動が多い時期です。機関誌や連絡を確実にお送りできるよう、各種の変更のご連絡はお早目にどうぞ。
①必ずハガキによること（電話は不可）。
②あて先は事務センターの担当係（住所は左記）。
③本人氏名（フリガナも）のほか会員番号も必ず。会員番号は、郵便物のあて名の氏名右下に印字されているコード番号です。
④異動の内容を正確、十分に。
＊所属や住所の変更は、新・旧をはっきり対比させる。
＊これからの連絡先は「所属」か「自宅」かを明示する。
＊準会員から正会員への変更もその旨を明示する。

学会事務の連絡先
〒一一三　東京都文京区弥生
二丁目四番十六号
日本学会事務センター
日本行動計量学会係